

白山市の利便性向上の方策 ～すみよさランキングを用いて～

団体名●梅田ゼミナール／代表者名●梅田充（経済学部経営学科講師）

はじめに

本ゼミでは、白山市の利便性向上について調査した。白山市は、東洋経済新報社の住みよさランキングで4位と高い評価を受けている。実態とは別に、このようなランキングはレピュテーションとして様々なステークホルダーに影響を及ぼす。そこで、住みよさランキングを用いて、本ゼミの目的は、松任駅周辺の賑わい創出を目的として、白山市の玄関として人々の「動きの活性」のための施策を明らかにすることである。

活動内容

白山市には、食品から精密機器まで多様な工場が集積している工業団地がある。このような工業団地が行政に対してどのような影響を調査するために、白山市役所へインタビュー調査を行った。

インタビューから、白山市は災害リスクが低いこと、輸送拠点として優れていることから魅力的な工場の立地ということが分かった。また、工業団地が市へ及ぼす影響が大きく、特に人口面や財政面で正の影響を与えることが分かった。

次にインタビュー結果から、得られた定性情報をもとに、市のレピュテーションにどのような影響を及ぼしているから調査するために、東洋経済新報社の住みよさランキングを調べた。

ランキングを分析した結果、「富裕度」が高いことがわかった。「富裕度」は、財政の豊かさを示す指標で測定される。インタビュー結果と同じく財政面で正の影響を及ぼしていることが分かった。

一方で、「利便性」の値が非常に低いことがわかった。「利便性」は、商業施設数などで測定される。隣接する野々市市は、ランキング1位であり、相対的に「利便性」の値が高い。そこで、商業施設等を調べたところ、野々市市に比べて白山市は商業施設が少なく、野々市市に商業施設が多いことが分かった。しかし、市という行政の関係から全く動線がなく、特に市民バスの連携が取

れていないことが明らかになった。上述の通り住

みランキングの利便性に関する指標が低いことが分かった。

「利便性」がなぜ低いのかを明らかにするために、白山市、野々市市の商業施設とそこまでのアクセスを調べた。

成果、結果の考察

いかにして白山市の「利便性」を向上させるのかについて検討した。検討の結果、市という行政区分の関係から全く動線がなく、特に市民バスの連携が取れていないことが明らかになった。このような結果から本ゼミでは、労働者が集中する工業団地、野々市市の強みである商業施設を行政区分を超えた市民バスの重要性を提案した。

今後の課題、展望

実際に、市民バスの両者へのアンケートを行いたいと考えている。具体的には、「バスの活用度」、「バスの利用度」、「バスの満足度」が「市民の動向」にいかに関与しているのかについて、統計手法を用いて分析する。

加えて、バス事業者や主要な商業施設関係者へのインタビューを通じて、市を跨いだバスの乗り入れが行政面、収益面で実現可能かについて検討したい。

